

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	84	学校名	茨城県立水海道第二高等学校				課程	全日制		学校長名		海老沼 正					
教 頭 名	幸田和洋										事務(室)長名		荒井寿紀				
教職員数	教 諭	48	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技 術職員等	4	計	63
生 徒 数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		29	91	44	75	36	79			109	245	9				
	商業科		33	47	28	48	21	39			82	134	6				
	家政科		0	40	0	39	0	39			0	118	3				

2 目指す学校像

- (1)豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った生徒を育成する学校
 (2)伝統を継承しながらも柔軟に社会の変化に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる生徒を育成する学校
 (3)普通科・商業科・家政科が切磋琢磨し合い、それぞれの特長を高めて社会に貢献できる生徒を育成する学校
 (4)家庭や地域社会等と連携を深め、協働して持続可能な共生社会の実現を目指そうとする生徒を育成する学校

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①豊かな人間性を持ち、地域社会の中心として活躍できる人材の育成 ②自律と協和の精神を持ち、他者と協働できる、社会から求められる人材の育成 ③各分野の高度な知識技能を有し、スペシャリストとして牽引できる人材の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①普通科は、選択科目を多く取り入れ、多様な試験科目に対応し、希望大学への進路実現 ②商業科、家政科は専門性を高め、高度資格を有し、就職から大学進学までの進路希望実現 ③3学科横断的な学習活動とキャリア教育重視により、生徒の多様な進路希望実現
入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①本校の教育方針や、特色を理解し、本校への入学を強く希望する生徒 ②学習活動に積極的に取り組み、自己実現に向けて努力しようとする生徒 ③地域から愛される本校の生徒として、高い自覚を持ち、規律ある学校生活を送れる生徒 ④部活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動、ボランティア活動等に積極的に参加し、他者と協力し、豊かな人格の形成を目指す生徒

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	学習に関する潜在能力の高い生徒が多いが、全体として学習への取り組みが十分とはいえない。平日の家庭学習時間が1時間に満たない生徒が3割程度いる。	学習意欲や興味関心を高める授業実践、家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫を行う。
進路指導	3学科(普通科・家政科・商業科)の多様な進路希望に対応できるよう、適切な進路情報の提供や個別の指導が必要である。8割以上の生徒が進路指導に満足している。	各学科の特性を生かして生徒一人ひとりの能力を伸ばし、より高い目標を持たせる進路指導を実践する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立・問題行動の未然防止・学校内外の安全対策に対して、学校全体で取り組んでいる。生徒は落ち着いた生活ができています。	服装容儀や交通マナーについての指導をさらに徹底し、保護者や地域の信頼や期待に応えるよう努める。
特別活動	生徒会の活動は自主的に運営されているが、一般生徒の参加が十分とはいえない。部活動の加入率は約70%程度なので75%を目指す。キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行っている。	学校行事をとおして実践的な態度を養う。各委員会の活動をとおして、学校行事への自主的な参加を促す。
情報発信	ホームページの更新(約100回)やさくら連絡網を発信することにより保護者等に対する情報提供を行っている。	ホームページやさくら連絡網等により、教育活動の状況をさらに積極的に発信する。
働き方改革	昨年度のひと月の超過勤務時間の平均は約30時間であり、超過勤務は比較的抑えられている。ただし、進路指導や運動部の大会、成績処理が集中する時期に超過する傾向がみられる。	学級担任や運動部顧問が勤務超過になりやすいので、業務の効率化や、分担を工夫する必要がある。

5 中期的目標

- 1 生徒自らの学習意欲の向上を図り、学習内容及び指導方法の研究と改善に努め、魅力ある授業の展開を目指す。
- 2 生徒一人ひとりの、多様な希望進路に対応できる指導体制の確立に努める。
- 3 豊かな心の育成を図るために、ボランティア研修・活動を行いながら、人権教育や道徳教育の充実を図る。
- 4 人間関係を円滑にし、生徒が生き生きとした学校生活を送れるよう学校行事等を充実させ、教職員と生徒が共にあたる協働精神の育成を目指す。
- 5 健康な学校生活を送れるよう安全で安心できる学校環境の整備及び美化に努める。
- 6 地域に開かれた学校を目指し、教育活動についての情報を保護者や地域、中学校に向けて発信し、本校に対する理解や協力を得られるよう努める。
- 7 業務の精選や分担方法の改善を積極的に図って、生徒とのコミュニケーションの時間を増やすとともに、教員のスキルアップの場を確保する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学力の向上	①授業や家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう、教科指導の工夫・改善に努め、魅力ある授業の展開を図る。 ②授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。 ③個別面談を学校全体の取り組みと位置づけ、学習意欲を高める面談指導の充実を図る。
進路指導の充実	④生徒の進路意識を高め、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応する。 ⑤積極的な面接指導、的確な進路情報の提供、課外授業の充実に努める。 ⑥進路ガイダンス、進路講演会、インターンシップ等を通してキャリア教育を推進する。
生活指導の充実	⑦毎朝の登校指導を行い、挨拶・声かけ運動の推進、毎日の清掃の徹底を図る。 ⑧豊かな心の育成を図り、服装・頭髪をきちんとさせるなど規範意識の高揚を図る。 ⑨安全教育、特に交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。
特別活動の推進	⑩学校行事等の企画・運営を生徒中心に行い、自主的、実践的な態度を養う。 ⑪魅力ある部活動を展開し、加入率75%以上を維持し活気ある学校にする。 ⑫キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。
学校情報の積極的発信	⑬ホームページや各種通信等により、教育活動の状況を積極的に発信する。 ⑭学校公開事業等を通して、開かれた学校づくりに努める。 ⑮さくら連絡網を適切に活用し、重要度の高い情報が確実に保護者に伝わるよう努める。
働き方改革	⑯進路指導や学習指導の場面で業務の効率化を進めるとともに、全職員の連携により業務の分担・軽減を図る。 ⑰部活動においては、練習方法を工夫するなどして、活動時間の短縮に努める。
授業改善	⑱ICTや板書、資料などを効果的に活用し分かりやすい授業に努める。 ⑲机間指導等をしながら生徒の学習状況を把握し、適切な助言や支援をすることに努める。 ⑳授業満足度(全教員平均値)を3以上になるように努める。(KPI)